名古屋YMCA　みつかる。つながる。よくなっていく。　No.789 2023

YMCA News 9

2023年9月1日発行
1952年5月13日発刊
毎月1日（月刊定価1部60円）
（購読料はYMCA会費に含まれています）
公益財団法人名古屋YMCA
〒464-0848
名古屋市千種区春岡1丁目2番7号
TEL052-757-3331 FAX052-757-3332
●発行人 中村 隆
●編集人 渡邉 りいこ

学童キャンプの支援の意義

誰もが、公平に夢をかなえるチャンスを!!

コロナ禍で一層深まった格差により、学童の学びや体験の場が奪われています。経済的に厳しい家庭の子どものうち3人に1人が、学校外の体験機会をもつことができません。名古屋YMCAが実施する『学童キャンプ』は、そんな子どもたちを対象としたキャンプです。友だちや学生リーダーと協調しながら、自然の中、のびのびとプログラム活動を行っています。

様々な自然体験を通して、子どもたちの豊かな心と将来の希望を育むことが、学童キャンプ支援の意義です。そしてこの活動は、参加してくださるボランティアやみなさまからのご寄付・ご協力に支えられています。

寄付者一覧は最終ページに掲載しております。
ご寄付いただいた方々に心より感謝申し上げるとともに、引き続き寄付を募っております。
ご協力いただける方は、下記へお振込み願います。

振込先
三菱UFJ銀行（普）　きよなみ支店（804）
1117990　公益財団法人名古屋YMCA

今年の思い出

キャンプ場はとても涼しく、名古屋では考えられないエアコンなしの生活に、子どもたちはとても驚いていました。晴天に恵まれ、ドラム缶風呂や川遊び、ナイトハイク、キャンプファイヤーなどの様々なプログラムを無事に行うことができました。

川釣りでは、木の枝やタコ糸を使って自作の釣竿を作り、さらに餌となるミミズやバッタなどの生き物も自分たちで捕まえ準備をしました。残念ながら魚は釣れませんでしたが、お互いに声を掛け合いながら協力して取り組むことができました。

また、食事の際には、みんな「美味しい！」と言いながらたくさん食べていました。作ってくださった方に「ごちそうさまでした。美味しかったです。」と伝えている子もいて、その成長に感動しました。

学童キャンプは全員が初めての顔合わせ。最初はみんな緊張していましたが、帰る頃には「まだ帰りたくない」「またみんなに会いたい」と寂しそうにバイバイをしていました。そんな姿をみて、ここで出会ったお友達を大切にしていって欲しいなと思いました。　（担当スタッフ　遠山 奈月）

ライフジャケット寄贈感謝

公益財団法人日本釣振興会様よりライフジャケット50着の寄贈を賜りました。ありがとうございます。野外活動アース7月の川遊びで早速使用させていただきました。今後も水辺活動で子どもたちの安全を守り、自然に接する楽しさを体験していくため大切に使用させていただきます。　（担当スタッフ　遠藤 恵美子）

公益財団法人日本釣振興会の ライフジャケット寄贈事業の目的

子どもの成長期に自然と接することは、その子どもの情操教育上大変に良い影響を与えると言われています。自然の中には動物や植物、魚もいます。それらが自然の摂理の中で成長し、また子孫を育んでいます。自然に接するということは、そのすべてを感じ、対応できる能力を養うことです。水辺ということで予期しない危険もあります。しかし、その危険を乗り越える能力を養うことにより子どもの成長を促します。公益財団法人日本釣振興会は、水辺での活動を通して釣りの振興に繋がることを願っています。(抜粋)

維持会員感謝・ご寄付感謝　(2023年6月22日～8月21日)

維持会員（継続）

伊左治　真　　星島　和空　　磯部　　徹　　秋重　　殉　　井上　剛志　　中山　惇雄　　林　敦子　　平野　実郎
荒川　文門　　水谷　　悟

賛助会員（継続）

豊田通商株式会社　　中部日本放送株式会社　　株式会社矢場とん　　日研オフィスシステム株式会社
株式会社テツタニ　他

寄付金・募金

（学童キャンプ）　**※上記期間後にご寄付頂いた方は次月号へ掲載いたします**

渡辺　　孝　　浅野真紀子　　木村眞知子　　山本　　徹　　伊藤　　剛　　三口　妙子　　嶋崎　英子　　牧野　和博
磯部　裕幸　　李　　順花　　三牧　　勉　　林　　敦子　　澤村　雅史　　川本　龍資　　浅野　猛雄　　下村　徹嗣
吉川　裕子　　八木　武志　　野村　靖子　　水田　秀子　　杉山　弘時　　西村　　清　　田中　万寿　　義井　裕子
名古屋グランパスワイズメンズクラブ

（チャリティーラン）　義井　裕子

（日和田高原キャンプ場リニューアルプロジェクト）　名古屋ワイズメンズクラブ

早天祈祷会

日　時　9月5日（火）7:45～8:30
会　場　名古屋YMCA5Fチャペル
奨　励　日本基督教団名古屋中央教会
日下部 蒔恵 伝道師

ワイズコーナー　9月例会の予定

名古屋	9月12日(火) 19:00～	クラブ内ミーティング	名古屋YMCA 本館
名古屋 東海	9月14日(木) 18:45～	卓話　「イギリスを訪問して」 講師：東海ワイズ　木村 眞智子	ラ・スース ANN
名古屋 グランパス	9月9日(土) 9:30～	名古屋YMCA大会	KKRホテル

お問い合わせ

名古屋YMCA　052-757-3331
YMCAこひつじ保育室　052-757-5530
南山ファミリーYMCA　052-831-6968
南山幼稚園　052-831-8271
神沢ファミリーYMCA　052-879-6300
YMCAかみさわ保育園　052-879-6222
名古屋YMCA日本語学院　052-531-0077
発達サポートYMCAつるさと　052-823-2021
かりやYMCA保育園　0566-62-8227

https://nagoyaymca.org

名古屋YMCA 使命

「名古屋YMCAは、キリスト教精神に基づき、すべての人びとに、生涯にわたる学習の場と、社会参加の機会を提供し、相互の交わりと連帯を通して、共に生きる世界の実現を目指します。」

2023年度聖句

「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。」
（イザヤ書43章19節）

告　知

第30回名古屋YMCAインターナショナル・チャリティーラン

今年で30回目の記念となるYMCAインターナショナル・チャリティーランは、“障がい”への社会的な理解と関心を高めると同時に、障がいのある子どもたちへの支援を目的とした大会です。新型コロナウイルスの５類感染症移行を受け、全員が会場に集まって開催いたします。

皆様からお預かりした支援金は、障がいのある子どもたちの体操教室や体験活動などの運営費として大切に使わせていただきます。多くの参加者および支援者の方々とともに、本大会が無事に開催されることを願っています。ご支援・ご協力の程よろしくお願いいたします。　（担当スタッフ　東田 美保）

日　程：2023年11月4日（土）
　　9時00分～12時45分（予定）
場　所：名城公園噴水予定地

第10回名古屋YMCA大会

世界のYMCAが取り組むグローバル戦略『YMCA Vision 2030』を基に、私たち名古屋YMCAの歩みについて考えます。また、コロナ禍により会うことができなかった方々との懇親の場となれば幸いです。是非ご参加ください。　（担当スタッフ　万福寺 昭美）

日　時：2023年9月9日（土）　9時15分受付開始
場　所：KKRホテル名古屋
参加費：5,000円（懇親会のみ）
※詳しくはチラシをご覧ください

国際協力募金

今年度の国際協力募金は、日韓ユースセミナー、フィリピンフレンドシップキャンプ、ウクライナ避難者支援、アジア地域の子どもたちの支援などを使途として実施させて頂きます。10月を国際協力月間とし、街頭募金は10月15日（日）に実施する予定です。詳細は、YMCAのホームページに掲載いたします。　（担当スタッフ　広瀬 謙一）

総主事コラム

晴耕雨読

今年は猛暑でなく酷暑。8月12日の名古屋の気温は39℃。水道の蛇口を開くと本当にぬるま湯が出てきます。温暖化ではなく地球の悲鳴が聴こえてくるようです。岐阜県高山市標高1400mの日和田高キャンプ場では、朝晩は20℃以下、御岳山の湧き水はいつも冷たく清らかです。8月上旬に1週間、キャンプ場の駐在として子どもたちのキャンプの受入れを担当しました。早朝の涼しい時間帯にキャンプ場の草刈りを1時間行い、キャンパーの食事を3度整え、食洗器がないので終わった食器はすべて手洗い。1回5kg程の米を炊くのも重労働。特に今年はパンの値上がりが激しいので、いただいたお米でできる限り米食。精米したての米を湧き水で炊くと実に美味しく食事が進みます。夏の陽射しは厳しく日中は汗ばみますが、木陰は涼しく爽やかです。午後からはほぼ毎日夕立があり、雨上がりには虹が出て、気温もぐっと下がります。夜は満点の星空、天の川と流れ星が別世界へといざなってくれます。1週間、規則正しい生活を過ごすと身体と心が元気になるのがわかります。日の出と共に早起きし、夜は疲れて早く寝る。晴れれば外で作業し、雨が降れば室内で静かに過ごす。自然と共に暮らしていると、当たり前の生活です。

キャンプにくる子どもたちもみな同じように過ごします。朝は掃除をして、身の回りを自分で整え、食事の配膳を手伝い、使った食器は片付ける。食べ残しのないように食事の量を考え、最初は少なめでおかわりは自由。体を十分に動かした子どもたちは本当に良く食べます。最初の朝はみんな超早起きですが、2日目からは疲れて普通に早起き。そして夜はすぐに眠りにつきます。テレビもゲームもない世界。キャンプ場での生活がローインパクトで自然と共生する本当の意味を教えてくれます。

（中村 隆）

夏休みプログラム報告

アフタースクール Fun!で過ごした夏休み

普段は学校帰りの子どもたちの第二の家でありたいとの思いを込めて、「ただいまー！」「おかえりー！」と迎えていますが、元気いっぱいの「こんにちは！」が聞けるのは長期休暇ならではかもしれません。

アフタースクールFun!の夏休みメインイベントは、日替わりで行う楽しいプログラムです。実験やクラフト、お出かけ、クッキングなど、様々なことに挑戦しました。『スポーツ雪合戦』もその一つ。「夏なのに雪？」「雪は本物？」と子どもたちは興味津々。ゴムボールを手に、相手コート目がけてビュンビュンと投げ合う様子はまさに真剣勝負。チームで作戦を練り、力を合わせて白熱した“雪合戦”を繰り広げていました。

夏休み中は学区外のお友だちもたくさん参加してくれました。いつもと違うメンバーもやっぱりFun!の仲間です。一緒に過ごした毎日の体験が、夏休みの楽しい思い出になってくれていたら嬉しいなと思っています。

（担当スタッフ　伊藤 美恵）

スポーツ雪合戦　白熱した雪合戦！大きな掛け声が響きました。

コンクリートで植木鉢　牛乳パックで型取りした手作り植木鉢。みんな上手！

モリコロパーク　みんなでおでかけ♪ 遊具でたくさん遊びました。

食べられるスライム　ゼリーを使った実験です。なかなか固まらないゼリーに大苦戦！